

収蔵資料ミニ展示「クジャクヤママユとヘルマン・ヘッセ『少年の日の思い出』の世界」

— 博物館で文学展開催 —

土屋 慶丞*



写真：展示風景

はじめに：昆虫文学としての『少年の日の思い出』

クジャクヤママユという蛾を巡る少年時代の『僕』の憧れと葛藤。そして「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな」という有名なセリフ。ヘルマン・ヘッセの短編小説『少年の日の思い出』（1931）は、1947年に中学校国語教科書に採択されて以来、80年近くにわたって掲載され続けていることから、「日本で最も読まれている海外文学」といわれます。そこでこの作品が学校の授業で取り上げられる時期に合わせて、登場するチョウや蛾を紹介するミニ展示を開催しました（2025年1月25日～4月6日）。

展示資料

標本資料としてクジャクヤママユ、オオクジャクヤママユ、ヒメクジャクヤママユ、ワモンキシタバ、キアゲハ及びコムラサキの6種。絵画資料として19世紀ドイツの図鑑に描かれた、クジャクヤママユ、ワモンキシタバ、キアゲハ及びコムラサキの4種を展示しました。

クジャクヤママユの標本はブルガリア産で、1920年代に飼育して羽化させた個体。ヘッセの時代にも蛹からかえして標本にすることが広く行われていたようです。

夜の孔雀の眼：ポケットに入れた蛾はどれか？

少年時代の『僕』が盗み、ポケットに入れて壊した蛾について、ドイツ語の原文では“Nachtpfauenaug”（夜の孔雀の眼）と書かれています。教科書では『楓蚕蛾』や『ヤママユガ』など、年代によって訳語が変わってきました。

ドイツ文学者で昆虫愛好家の岡田朝雄氏は、ドイツには“Nachtpfauenaug”とよばれる蛾は3種類いて、そのうちオオクジャクヤママユはポケットに入れるには大きす

*釧路市立博物館

ぎ、ヒメクジャクヤママユは普通種であるため、作品に登場する蛾はクジャクヤママユであると特定しました。

クジャクヤママユはヘッセが少年時代を過ごしたドイツでは非常に珍しい蛾であることから、作品の記述とも一致します。そのため現在使用されている教科書の多くが『クジャクヤママユ』の訳語を用いています。

生成AIの可能性

「少年の日の思い出を語る『僕』」のイメージ画像を生成AIで作成し、標本とともに展示しました。開催記念ポストカードにもイメージ画像を利用したところ好評で、2月上旬で配布終了となりました。



図：少年の日の思い出を語る『僕』（生成AI画像）

体験コーナー：クジャクヤママユをポケットに！

会場には物語の中の『僕』になりきって、展示してあるクジャクヤママユ（実物大レプリカ）をピンから抜いてポケットに入れる体験コーナーを設け、ポケットにちょうど収まる大きさであることを体感していただきました。原作とは異なり、ポケットに入れたクジャクヤママユはお持ち帰りいただき、かわりに壊れたクジャクヤママユ（実物大レプリカ）をピンで刺してもらうことにしました。

さいごに：標本の活用と「博物館の価値」

釧路市立博物館には地元産以外の昆虫標本も所蔵していますが、展示等で活用される機会はほとんどありませんでした。今後は文学やアートなど、これまでになかった展示を企画して地元産以外の標本も活用していくことで、「博物館の価値」を向上させていきたいと考えています。

謝辞

本展開催にあたり画像資料を提供された、新部公亮氏に心より御礼申し上げます。